

北九州市地域コミュニティビジョン(素案)について(概要)

地域コミュニティで受け継がれたこれまでの歩みを新たな時代へつなぎ、課題を価値に変えるフロントランナーへ

地域コミュニティビジョンの最新情報はコチラから →



議論の過程

地域、大学、企業、NPO、Z世代などが参加する
地域コミュニティビジョン検討会議

- ・地域コミュニティの現状・課題
- ・地域コミュニティの役割や価値
- ・将来像に必要な視点、実現する取組

検討会議の開催
5回



地域団体等の皆様への
ヒアリング
140回以上

子育て世代などの
アンケート調査
6,000件

目指す将来像

共助が働きやすいまち (Mutual city)

～人と想いが交わる、利他が息づく、持続可能な地域コミュニティ～
「誰かが担ってくれるもの」から、「みなでつくっていくもの」へ

大事な3つの視点

より一層自律的、
能動的な運営へ

- ・つながりや安全・安心という役割を維持しながら、必要な活動を自主的に判断
- ・必要な資源を安定的に確保し、地域内で循環させる

多様な主体との
協働の促進

- ・多様な主体が関わり、それぞれの強みを活かした協働を促進
- ・課題への対応力とコミュニティの魅力を向上

「楽しさ」「興味」
「やりがい」の重視

- ・「楽しそう」「関わりたい」と思える参加の入口をつくる
- ・役に立つ実感を通じて継続参加とやりがいにつなげる

北九州市の歴史と可能性

住民自治の歴史・人情大都市

“日本の100分の1モデル”



婦人会による研究発表会(林えいだい氏撮影)



自然と都会の良好なバランス
日本人口の約1/100の規模

【実践の考え方】具体的な取組の方向性(抜粋)

○みんなの声を活かす

「地域×“ブロードリスニング”」
多様な意見を収集し傾向等を見える化

地域のデータや現状などを
“見える化”



○多様な主体と協働する

「地域×“企業・大学・NPO…”」
強みを活かした協働で課題解決

次の10年地域づくり
先行モデルプロジェクト
現状分析から解決まで新たなモデルを模索



○経験を地域の力としてつなぐ

「地域×“経験”」
シニアの経験や知識を地域の力として、活動の価値を見える化

ケイケン・タカラ
プロジェクト
シニアの豊かな経験を次世代へとつなぐ「登録制度」の創設など



○デジタルでつながる

「地域×“デジタル”」
情報発信、助け合いや運営にデジタルを活用する

地域のチカラつなぐ
プロジェクト

デジタルを活用した助け合いの仕組みなど



○つながりを生む場をつくる

「地域×“居場所”」
気軽に立ち寄れる交流の場づくり

まちの縁側・リビング
プロジェクト

参加しやすい地域への「入口」として
気軽に立ち寄れる居場所づくり

